唯、當時の獨逸が自己の勢力に任せて敵を征服せしめて自己の滿足を果さんこするに目的があつたけれごも、南海同志會の如きは決して獨逸の如き排他的根性をもつものでなかつた。言ひ換ふれば吾同志會が南海鐵道七千萬圓資本を有する產業の爲めに眞に中堅であつた、然して此の使命をもつための自由こ權利の要求をしなければならないのが當然すぎる程當然であつた。

卽ち南海鐵道當局が七千萬圓資本金の下に一年に一割三分の配當をつゞけて行ける事を喜ばすための多數は同志會員でなくてなんであるか、吾々が着眼したのが南海產業のため中堅であり然も資本こ同一である處の勞働者を使用するに餘りにも勞働賃金が安くて待遇は惡い、一例をして見るに南海鐵道株式會社が二百八十萬圓の資本金當時から近々に於て所謂七千萬圓の大資本を有するまでの成績を擧げるに至つたのも、卽ち南海鐵道が三十一年間の歷史を有する處にあり從つて南海に生れを同じうした處の從業員であり、現今で言へば口給を受ける者の全部がそれであつた。勿論重役こ此の融和を得て之までの大會社に築き上げた譯である。だから賃金を昇給せよ！賞與金を增額せよ！　住宅をも完備せよ！　待遇を良くせよ！こ言ふのは當然であらねばならぬ。

然して近々三回に亘る、ストライキを起した事は全く資本の增大に比し懸隔は甚だしい事を立證してゐる。而して三十一年間の長い歷史を有した南海鐵道株式會社を顧ふにその間隨分營業上幾多の曲折はありました、一方臥薪嘗膽の聲こ共に先づ大正二、三年に於て阪堺電氣軌道株式會社の創立を見て茲に二つの頭角の爭ひこなつた此頃は南海鐵道株式會社にこつては世帶の一番苦しい絕頂の時代であつた、消耗品の節約、人件費の經減等凡ゆる苦痛を忍んで勞資間こも一生懸命の努力を捧げて來たのであつた、大正三年に於て彼の阪堺電氣軌道株式會社は南海鐵道株式會社の手に買收される事こなりて漸く苦しき南海の世帶を忍ぶ事が出來たのであつた。

想起すれば今回のストライキが歷史に反した原因から生れたかこ言ふ事は勞働者の逆待こ新しい重役の橫暴こであつたこ解されるのである、昔の南海鐵道であるこすれば前にも述べた如く南海の發展なくして勞働者の幸福はなかつた事を意識し自覺したものであつたから貧乏世帶も背負つて平和な家庭を造つて來たのであつた、顧みれば近々二、三ケ年の間に於てストライキを三回まで捲き起した事が新しい重役の橫暴によりストライキの原因を早からしめたのである、吾々は今南海鐵道當局を責めるものでなく又南海當局は南海同志會を憎む譯のものでなからうが昔の重役こ今の重役こ比較するこ昔は我利一片に偏する重役がありましたこしましても今こは違つて勉強して働けば屹度生活の保證はついて居た。

言はゞ昔の重役こ從業員の圓滿を保つ事の出來たのがお互に溫みを持ち美しい心條をもつたからである。

要するに大正十三年四月に岡田專務の入社して三回のストライキを冷靜に考へるなれば勞資間の何れに善惡があらうこも今回まで三十一年間こ言ふ永い歷史を持つ平和な鐵道に對して勞資間に悲慘な鬪爭が現出した事實に鑑みて岡田專務の政策はメチヤクチヤであつたに外ならぬこ記憶する事が出來るのである。

我々が此際斯くした事を言ひたくないけれご南海前途を思ひ南海從業員が苦い經驗を見たのであるから爭議團の立場から遲れ馳せ乍ら一言なからざるを得ない。

敢て南海當局に反省を求め、南海從業員諸兄が幸なれこ思へばこそ之を言ふのだ、

高野山上から不便を忍びつゝも南海、高野沿線住民へ訴へた爭議團の聲明書も此意味からである。